

オール沖縄で
医師のキャリアを考えるマガジン

Muru Uchina

ムルウチナー

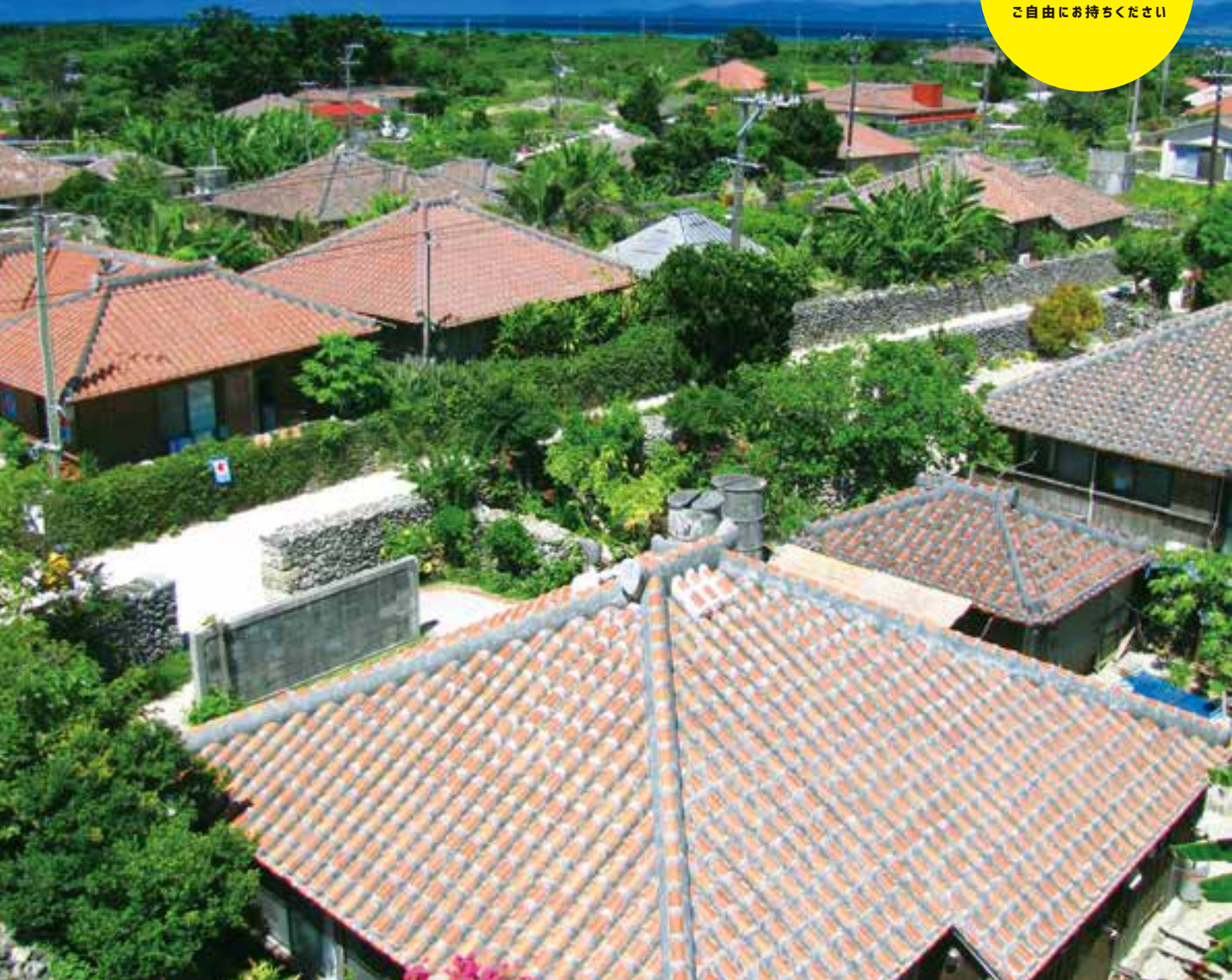
2017 Autumn Vol.05

沖縄の臨床研修、
その魅力と特徴に迫る。

オール沖縄 ～赤瓦プロジェクト～

Take Free

ご自由にお持ちください

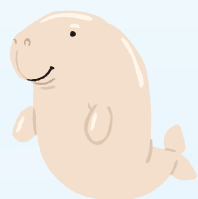




Muru Uchina

ムルウチナー

オール沖縄で 医師のキャリアを考えるマガジン



沖縄で活躍する医師たちを通して

沖縄の医療と臨床研修の魅力を紹介するマガジン「ムルウチナー」。

「ムル」は全部、「ウチナー」は沖縄を意味します。

島の人々の健康を守るためには

地域住民との“信頼関係”と地域医療機関との“連携”が必要不可欠です。

医療の本質と島の未来を見つめ続ける沖縄県の医師たちの

「ムルウチナー」を感じていただけたら幸いです。



2017 Autumn Vol.05

INDEX

P.02
Feature

オール沖縄

～赤瓦プロジェクト～



沖縄の臨床研修、その魅力と特徴に迫る

オール沖縄 × ムルウチナー

P.04

Interview #01

沖縄県発の新たな医療と教育スタイルを創造し、
“沖縄から世界へ”を実現したい

沖縄県医師会 / 副会長

玉城 信光 先生

P.07

Interview #02

医師のプロフェッショナルリズムの教育に必要なのは
コンペティションではなく、コラボレーションである

群星沖縄研修群 / 群星沖縄臨床研修センター センター長

徳田 安春 先生

P.10

Interview #03

“良い師”に出会う環境と多様性のある研修で
理想のキャリアプランを実現する

RyuMIC群 / 琉球大学医学部附属病院 総合臨床研修・教育センター臨床研修センター センター長

垣花 学 先生

P.13

Interview #04

屋根瓦方式の手厚い指導体制のなか圧倒的多数の症例に触れ、
医師としての確かな実力を培う

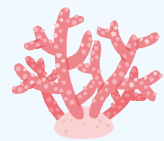
沖縄県立病院群 / 沖縄県立中部病院 内科副部長（総合内科部長）

金城 紀与史 先生

P.16

Okinawa Crossword Puzzle

沖縄クロスワードパズル



ALL OKINAWA

AKAGAWARA PROJECT

オール沖縄

～赤瓦プロジェクト～

沖縄県には、【群星沖縄研修群】、【RyuMIC群】、【沖縄県立病院群】の3つの研修群があります。

これら3つのグループに属する16の臨床研修病院が

「オール沖縄～赤瓦プロジェクト～」として英知を結集し、研修医一人ひとりの未来に応えます。

全国の医学生のみなさん、沖縄県の広大な空と海、そして美しい自然環境のなか、

「オール沖縄～赤瓦プロジェクト～」によるさまざまな研修プログラムを通じて、

あなたが目指すキャリアアップを実現し、医師人生を輝かせませんか。



沖縄が誇る3研修群の優れた
医療と教育システムを結集し、
一人ひとりの未来に応える

幾つもの赤瓦が漆喰によって密接に固められ、力強いシーサーが鎮座する沖縄の伝統「赤瓦屋根」。日差しに輝く真紅の美しさはもちろん、台風に強く頑丈であることも特徴で、赤瓦屋根は青い空、青い海と共に、沖縄の人々にとってなくてはならない誇りとなる風景の一つです。

そんな沖縄を象徴する赤瓦の名前を冠したオール沖縄による臨床研修プロジェクト。それが「オール沖縄～赤瓦プロジェクト～」です。

これは沖縄県の3つの研修群である、【群星沖縄研修群】、【RyuMIC群】、【沖縄県立病院群】が病院群の垣根を越え、3研修群に属する16もの臨床研修病院が結集し、研修医一人ひとりのニーズと将来に添えていく研修プロジェクトです。

オール沖縄の医療資源、教育システム、指導医の全てが赤瓦のように密接に重なり合い、沖縄県があたかも一つの病院であるように研修医を育てる。この設立母体を超えた連携は、全

沖縄の臨床研修、 その魅力と特徴に迫る

Special Interview

オール沖縄 × ムルウチナー

02

群星沖縄研修群

民間の8つの基幹型研修病院と
19の協力型病院・施設で形成された
研修病院群。

01

沖縄県医師会



04

沖縄県立 病院群

各医療圏の中核病院として
位置づけられている4病院を
はじめとして各協力施設で構成された
研修病院群。

03

RyuMIC群

琉球大学医学部附属病院を含む
4つの基幹型研修病院、
研修協力機関との連携による
研修病院群。



国的にも珍しい画期的な取り組みであり、オール沖縄で研修医を育てる熱い思いは、必ず若い医師たちの素晴らしいキャリアに繋がることを確信しています。

今回のムルウチナーVol.5では、「オール沖縄」赤瓦プロジェクトを形成する3つの研修群、そして沖縄県医師会から、それぞれを代表する先生方をインタビューしました。各先生方の視点から沖縄で臨床研修をする魅力に迫ると共に、次代の医療を担う医学生と若い医師のみなさんに向けた、良き医師になるためのメッセージを送ります。

沖縄県発の新たな医療と
教育スタイルを創造し、
沖縄から世界へを実現したい

ALL
OKINAWA



AKAGAWARA PROJECT

× MuruUchina
Special Interview

01

沖縄県医師会

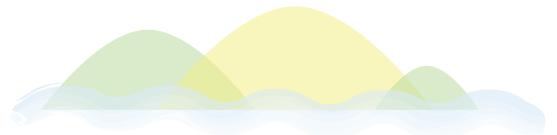
INTERVIEW

沖縄県医師会 副会長
医療法人那覇西会 理事長

玉城 信光先生

Nobumitsu Tamaki

沖縄県石垣市出身。1973年、東京大学卒業。東京大学第3外科と藤間病院(埼玉県)にて、日本最先端の消化器がん医療、乳がん検診を研鑽する。1979年、沖縄県立那覇病院に乳腺外来を開設し、沖縄の乳がん医療を構築。1996年、那覇西クリニック、2005年、那覇西クリニックまかびを開院。現在、沖縄県医師会副会長、沖縄県政策参与、日本乳癌学会評議員などを歴任。



沖縄県を全島一体型の
研修体制とするために、
3 研修群の密な連携を図る

「地域医療から先端医療まで、
沖縄県発の医療を世界が学ぶ、
沖縄から世界へ。」を実現したい
です」

そう力強く語ったのは、沖縄
県医師会の副会長である玉城
信光先生だ。

2004年に臨床研修制度
が始まって以降、「群星沖縄研
修群」、「RYUMIC群」、
【沖縄県立病院群】の3研修群
が切磋琢磨してきたことで、沖
縄県全体の臨床研修のレベル
アップが図られてきた。この3つ
の研修群をまとめ、沖縄県を全
島一体型の研修体制とする

「オール沖縄」赤瓦プロジェクト
の実現に大きな役割を果た
したのが、沖縄県医師会である。

「沖縄県医師会では沖縄県内の
初期臨床研修医が一堂に会す
る、『研修医歓迎レセプション』
を開催しています。3 研修群の
研修医と指導医が交流を図り、
親睦を深めることで、オール沖
縄の連携をより一層強化する非
常に重要な場となっています」

2009年に沖縄県医師会
の主催で始まった「研修医合同
歓迎レセプション」。これを契機
に、オール沖縄の実現が加速し
ていった。2011年には沖縄
県医師会主催の医学会に「沖
縄県医師会医学会賞(研修医
部門)」が創設され、沖縄県内

全ての研修医が積極的に学会

活動に参加できる環境が整え
られた。さらに2012年には、
沖縄県医師会、沖縄県、琉球
大学との共同で沖縄県内全て
の医療従事者が利用できる「お
きなわクリニカルシミュレーショ
ンセンター」が開設された。

「沖縄県医師会医学会賞(研
修医部門)」は、学会の中で初
期研修医が発表する機会を年
に2回設け、優秀者を表彰して
います。各研修群の研修医と指
導医が切磋琢磨することで、モ
チベーションアップと研修のレベ
ルアップに繋がっています。『おき
なわクリニカルシミュレーション
センター』は、沖縄県内の全て
の医療機関、医療従事者の共
同利用施設として運営されてい
ます。県内全ての研修医が参加
するトレーニングや、研修医の目
標到達度評価を行うOSCE
など、オール沖縄による研修医
教育を提供し、さらに研修医や
指導医たちの人的交流の場と
しても活用されています」

人から学ぶ2番手ではなく、
人が学びたいと思う
オンラインを創造する

沖縄県医師会によって、3研
修群の連携強化が加速し、
「オール沖縄」赤瓦プロジェクト

ト」が本格的に始動した。

各々の群の研修医に呼びか
け、「救急外来で役に立つ超音
波の使い方」を指導するプログ
ラムなどを開催し、指導医が自
分の所属する群以外の研修医
にレクチャーしている。県内全て
の研修医が参加する講習会の
開催など、「オール沖縄」赤瓦
プロジェクトにより新たな
取り組みが多く生まれている。
さらに玉城先生は、オール沖縄
によって日本の地域医療を変え
る新たな医療モデルができるか
もしれないと言う。

「たとえば、オール沖縄で医療
チームをつくり、沖縄県から本
土の医師不足に悩む地域やへ
き地にチームごと派遣するな
ど、沖縄県なら日本の地域医
療を変える新たな試みもでき
るのではないかと思います。
『オール沖縄」赤瓦プロジェクト』
によって、沖縄の医療の
さまざまな可能性が大きく広
がりました」

沖縄県では、戦後、県立病院
がアメリカ式の医療と医学教育
を学び、積極的に取り入れてき
たことで、プライマリ・ケアや救
急に優れた医療を実践してき
た。「今度は、沖縄から生まれ
た独自の医療や教育モデルを
世界が学び、世界が沖縄を目標



沖縄県医師会医学会賞
研修医部門

初期研修医



研修中から学会活動に参加できる

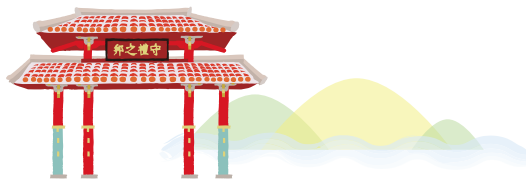
沖縄県医師会医学会

沖縄県医師会の医学会では、「沖縄県医
師会医学会賞(研修医部門)」を設け、年
に2回、優れた研究実績を発表した初期研
修医3名を表彰。研修期間中でも積極的に
研究や学会発表に参加することができる。



年 **2** 回 表彰者 **3** 名





とする医療を創りたい」と、玉城先生の瞳が大きく輝く。「オール沖縄〜赤瓦プロジェクト〜」により、設立母体や医療資源の異なる多彩な病院が一つとなり、沖縄から世界へへを実現する土壌は整った。今度はその土壌を医学生や若い医師がどのように活用していくかが重要となる。

「私はよく若い医師のみなさんに、『医師は最初の5年間に何をやるかで、その後が決まる』という話をします。沖縄から世界への実現には、人から学ぶのではなく、人に教えられる医療を自ら創造することが大切であり、それには研究が重要であると思っています。若い医師のみなさんには研究や論文にも

Q. 先生にとって沖縄の研修とは？

A. 医師になって「良かった」と思える経験を積むことができる。

オンリーワンを創造し、沖縄から世界へ——
次代の医療を担うあなたへ、玉城信光先生からのメッセージ。

積極的にトライし、人から学ぶだけの2番手であるのではなく、人が学びたいと思うオンリーワンを創造してほしい。そして、沖縄から世界へへを目指してください」



沖縄県医師会

1903年設立。地域医療、学術、医政を積極的に展開し、県民の保健医療福祉の向上のための予防接種や救急医療、学校医等諸活動に取り組む。医師確保、医師教育、女性医師支援にも力を注ぎ、3つの研修群の円滑な連携役も担う。

一般社団法人 沖縄県医師会

〒901-1105

沖縄県南風原町字新川218-9

TEL: 098-888-0087

FAX: 098-888-0089

沖縄の研修医が一堂に会する

研修医歓迎レセプション

沖縄県医師会では、県内の全ての初期研修医（1年次）を歓迎する「研修医歓迎レセプション」を開催。3つの研修群全ての研修医と指導医たちが参加し、親睦を深めています。



おきなわ クリニカルシミュレーション センター

沖縄県、沖縄県医師会、琉球大学が共同で開設。沖縄県内全ての医療従事者が利用できる施設であり、プライマリ・ケアから救急、そして専門スキルまで幅広いトレーニングをすることが可能だ。

INTERVIEW

群星沖縄 臨床研修センター
プロジェクトリーダー・センター長

徳田 安春 先生

Yasuharu Tokuda

沖縄県佐敷町(現:南城市)出身。1988年、琉球大学卒業。沖縄県立中部病院にて臨床研修。同病院の総合内科、ハーバード大学公衆衛生大学院、聖路加国際病院などを経て、2009年に筑波大学付属水戸地域医療教育センター水戸協同病院の立ち上げに関わる。2014年、JCHO顧問。2017年より群星沖縄臨床研修センタープロジェクトリーダー兼センター長。NHK「総合診療医ドクターG」などでも活躍。

医師のプロフェッショナルリズムの
教育に必要なのは
コンペティションではなく、
コラボレーションである

ALL
OKINAWA



AKAGAWARA PROJECT

× MuruUchina
Special Interview

02

群星沖縄研修群

患者の言葉に耳を傾けよ。
患者はあなたに
診断を告げている

2004年、新臨床研修制度のスタートと同時に、よい医師を育てるという一点で協力し、沖縄県の8つの基幹型病院と19の協力型病院・施設が相補的に研修医教育を担うプロジェクトがスタートした。それが【群星沖縄】である。

2017年、群星沖縄臨床研修センターのセンター長であった宮城征四郎先生(現名誉センター長・元沖縄県立中部病院長)よりバトンを受け、新たにセンター長に就任したのが徳田安春先生だ。

徳田先生は、全国で初めて国立大学と民間病院が手を組んだ筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院の立ち上げに関わり、地域医療機能推進機構(JCHO)顧問を歴任するなど、総合診療医の育成に力を注いできた臨床教育のエキスパートである。徳田先生は全国の医学生を対象に、従来の見学するだけの診療参加型ではなく、実際に診療に携わる診療主役型の臨床実習「闘魂外来」を実施するなど、全国を舞台に教育活動を展開している。【群星沖縄】の8つの



座右の銘

徳田先生の師である故・日野原重明先生（聖路加国際病院名誉院長）にいただいた「夢と勇気」という言葉。

基幹型病院においても、月に2回、徳田先生の直接指導を受けることができる「センター長教育回診」が実施されている。これは前センター長の宮城征四郎先生から受け継がれたもので、研修医にとって臨床の生きた学びを得る非常に有意義な機会となっている。

「私が実際に患者さんを診療しながら、医学教育の基礎を築いたウイリアム・オスラー医師の言葉にある『患者の言葉に耳を傾けよ。患者はあなたに診断を告げている』を実践することで、総合診療に重要なフィジカルアセスメントを学んでもらっています。さらに【群星沖縄】では、総合内科部門における世界トップクラスのミシガン大学と連携をしたことで、世界的な有名指導医やチーフレジデントクラスの若手医師を招聘し、総合内科の世界の最前線を学ぶことができるのも特徴です」

次代の医療に必要なのは、臨床推論に優れた、**「イチロー型総合診療医」**

「日本の医療が直面している、高齢化への対応と地域医療を守るためには、一人ひとりの医師が臨床推論に優れた、守備範囲の広い「イチロー型総合診療医」としての能力を身に付けることが重要です。医師はどの専門科に進むにしても、ジェネラリストとしての能力が必要な時代であり、それを習得するに相応しい環境はプライマリ・ケアと救急医療のメッカである沖縄にこそあります」と、徳田先生は沖縄の研修で得られる総合診療能力に大きな自信を持つ。

さらに徳田先生は、沖縄の医療で学んでほしいことがあると言う。それは、「医療とはコンペティション（競争）ではなく、コラボレーション（協働）である」ということだ。この言葉は、3研修群が連携する「オール沖縄（赤瓦プロジェクト）」を象徴する言葉であるとも言える。

「医学生時代は受験や試験勉強などで常に他人と競争をし、初期研修でも同期と競争して一番を目指そうとします。しかし、医療で大事なものは競争ではなく、医師、看護師、コメディカル、そして患者さんやそのご家族との協働によるチーム医療です。コミュニケーションから多くを学び、協働し

て、共に素晴らしい医療を築くことが大切です。コンペティションからコラボレーションへ。それが医師としてのプロフェッションナリズムの教育に必要なことだと思います」

徳田先生の座右の銘は「夢と勇気」だ。これは聖路加病院名誉院長で、惜しくも2017年7月18日に亡くなった故・日野原重明先生が徳田先生に贈った言葉でもある。徳田先生は医に対する教えを日野原先生から学ぶために、沖縄から東京へ出向き、直接弟子入りを懇願した。その後、徳田先生は聖路加国際病院の一般内科医長、聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センターの副センター長として活躍した。

「若い先生方には、夢と勇気をもって目指す理想の実現に向けて歩み続けてほしい。そのときロールモデルとメンターがいることで、何があってもくじけず前進し続けることができます。ロールモデルは会ったことのない人物や書物でもかまいません。そして直接コミュニケーションができ、相談や教えるを請うメンターをつくることです。理想を実現するために大切なことです」

Q. 先生にとって沖縄の研修とは？

A. 守備範囲の広い、優れたジェネラリストになれる。

競争ではなく協働。
夢と勇気をもって前進し続けること——
次代の医療を担うあなたへ、
徳田安春先生からのメッセージ。





修了した研修医は

欧米やアジアでも活躍

米国レジデントやフェローシップに進んだ医師、国内外のパブリックヘルス系大学院への進学、厚生労働省の感染症危機管理フェロー医師なども輩出。欧米やアジアも含む世界各地の医療に貢献している。

浦添総合病院

〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目16-1
TEL:098-878-0231

大浜第一病院

〒900-0005 沖縄県那覇市天久1000
TEL:098-866-5171

豊見城中央病院

〒901-0243 沖縄県豊見城市上田25
TEL:098-850-3811



中頭病院

〒904-2195 沖縄県中頭市登川610番地
TEL:098-939-1300

中部徳洲会病院

〒901-2393 沖縄県中頭郡北中城村アワセ
土地区画整理事業地内2街区1番（泡瀬ゴルフ場跡地）
TEL:098-932-1110

ハートライフ病院

〒901-2492 沖縄県中頭郡中城村伊集208
TEL:098-895-3255

沖縄協同病院

〒900-8558 沖縄県那覇市古波蔵4-10-55
TEL:098-853-1200

南部徳洲会病院

〒901-0417 沖縄県島尻郡八重瀬町外間171-1
TEL:098-998-3221

ミシガン大学との提携

世界的有名医師からの レクチャーが実現

サンジェイ・セイント教授など世界的な有名指導医やチーフレジデントクラスの若手医師を定期的に招聘。希望する研修医は、ミシガン大学の見学や共同研究に参加することも可能だ。



臨床推論の活きた学びを得る

センター長教育回診

毎月、8つの基幹型病院で2回実施される「センター長回診」では、徳田安春先生による直接指導が受けられる。医師にとって大切な臨床推論の生きた学びを得ることができる貴重な機会だ。



「総合診療教育回診」
ミシガン大学 Dr.Vineet Chopra

群星沖縄

明日の良き臨床家を育成するために発足した、多数の民間教育病院アライアンスによるプロジェクト。そのスケールメリットを活かし、カスタマイズによる充実したローテーションで研修。ジェネラリストや国際的にも遜色ない医師と、良き指導医の養成に尽力する。

群星沖縄臨床研修センター

〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖3-42-8
丸豊マンション城901
TEL:098-870-0061
FAX:098-870-0065





ALL OKINAWA

AKAGAWARA PROJECT

× MuruUchina
Special Interview

03

RyuMIC群

◀ 良い師々に出会う環境と
多様性のある研修で
理想のキャリアプランを実現する

INTERVIEW

琉球大学医学部附属病院
総合臨床研修・教育センター臨床研修センター センター長
琉球大学大学院医学研究科 麻酔科学講座 教授

垣花 学 先生

Manabu Kakinhana

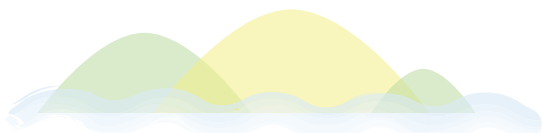
沖縄県那覇市出身。1991年、琉球大学卒業後、琉球大学麻酔科に入局。1996年、カリフォルニア大学サンディエゴ校麻酔科へ留学。1998年、沖縄県立宮古病院。2000年から再び琉球大学附属病院麻酔科。2009年、マサチューセッツ総合病院麻酔科。2014年、琉球大学大学院医学研究科麻酔科学講座 教授、琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター臨床研修センター センター長に就任。

一人ひとりに最適な
研修プログラムを作成し
より優れた研修を提供する

【RyuMIC群】は、沖縄県立中部病院、中頭病院、那覇市立病院、豊見城中央病院、沖縄赤十字病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立北部病院、北部地区医師会病院、ハートライフ病院、南部徳洲会病院、中部徳洲会病院、その他多数の研修施設が連携を図り、より優れた臨床研修を実現するために形成された研修グループである。その中心的存在である琉球大学医学部附属病院の視点から、【RyuMIC群】の特徴と魅力に迫ってみたいと思う。

【RyuMIC群】の最大の魅力は、研修プログラムの多様性です。大学病院と市中病院を組み合わせ、研修医一人ひとりが自分の理想とするキャリアプランに適したオーダーメイドな研修プログラムを組み立てることができま

す。そう語るのには、琉球大学医学部附属病院麻酔科の教授であり、総合臨床研修・教育センター臨床研修センターのセンター長も務める垣花学先生だ。琉球大学には、初期臨床研修プログラムの「ていだ」、県立宮古病院を主体とする「美ぎ島」、県立



中部病院と連携した「うるま」、そして将来、小児科、産婦人科を希望する医師に向けた「小児科プログラム」、「産科・周産科プログラム」の計5つのプログラムがある。さらに2018年度からは、2つのたすき掛けプログラムが新たに加わり、計7つのプログラムとなる予定だ。この7つをベースに、離島を含む沖縄県内の60近い協力病院・協力施設をフルに活用し、スケジュールと研修施設を自由に選択したオーダーメイドな研修プログラムをつくることができる。

RyuMIC（琉球大学）の研修医は、初期研修期間の24カ月のうち、多い研修医で16カ月、平均約10カ月と、研修期間の半分近くを大学以外の病院で研修をしている。この数字は、研修医が「RyuMIC群」の各病院のもつ特徴と機能をフルに活用し、キャリアアップに向けて有意義な研修が行われている証だろう。

**医師の師は教師の師。
医師とは、優れた
教育者でなければならぬ**

沖縄県の離島や地域医療に貢献する地域枠の医学生にとって、初期研修で医師としての実力をどれだけ習得できるかは非常に重要だ。地域枠出身の医師たちに向けた新たな研修プログラムや、2018年に始まる新たな専門医制度に対応し、初期研修から専門医研修に円滑に移行できる新たな教育システムの構築など、「教育」を大きく担う大学の病院の役割は大きい。琉球大学医学部附属病院を有する「RyuMIC群」が開発、提供する教育システムは、沖縄の医療のさらなる発展に非常に重要なものになるだろう。

「私は日々、臨床、研究、教育に携わっていますが、そのなかで最も大切なことは教育だと思っています。医師の師は教師の師であり、医師は優れた教育者でなければならぬ。教育がなければ人は育たず、後継者は生まれません。地域医療の充実には、地域の各病院が若い医師たちを育てることが必要であり、それには地域に教育のできる医師が必要です。目標とする、良い師に出会わなければ、若い医師はその地域や病院に残りません」と、垣花先生は教育の大切さを説く。

医師のキャリア形成においても目標とする、良い師に出会うことは大切だ。「RyuMIC群」には約200名もの優れた

指導医が在籍しており、研修医にとって5～10年先のキャリアプランのモデルケースとなる。良い師に出会うチャンスが豊富にある。良い師に多く出会えることで、医師としての可能性も広がり、自らも、良い師へと成長することができるのだ。

そして、医師として大きく成長するうえで欠かせないのは、「リサーチマインド」であると垣花先生は言う。現代の臨床に

Q. 先生にとって沖縄の研修とは？

A. 各専門分野に卓越した素晴らしい医師に多く出会える。

各専門分野に優れた

指導医が多数在籍

【RyuMIC群】には各専門分野に卓越した指導医が200名程度在籍しており、一人ひとりが目指すキャリアプランのモデルケースに数多く出会える環境も魅力だ。

指導医数

約 **200** 名





オール沖縄 ～赤瓦プロジェクト～ RyuMIC 臨床研修病院 一覧



大学病院と市中病院

両方の医療を経験

初期研修先を検討する際、大学病院と市中病院を比較することも多いですが、【RyuMIC群】なら、大学病院と市中病院、両方の医療を経験することができる。

細かなニーズにも応える

オーダーメイドな 研修プログラム

離島を含む沖縄県内の協力病院・協力施設をフルに活用し、そのスケジュールと研修施設を選択できる“オーダーメイド研修”が可能。自由度の高い研修プログラムで、目指す将来に有意義な研修ができる。

RyuMIC群

琉球大学医学部附属病院と地域における第一線の病院、及び保健所・診療所との連携を図り、研修プログラムを常に改善していくことで発展・向上を目指す。科学的根拠に基づいた医療を学び、専門研修へのステップとすることも可能。

【RyuMIC群代表】

琉球大学医学部附属病院 総合臨床研修・教育センター
〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
TEL:098-895-1384 FAX:098-895-1099



北部地区医師会病院

〒905-0006 沖縄県名護市宇茂佐1712-3
TEL:0980-54-1111

琉球大学医学部附属病院

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原207
TEL:098-895-3331

那覇市立病院

〒902-8511 沖縄県那覇市古島2丁目31-1
TEL:098-884-5111

沖縄赤十字病院

〒902-8588 沖縄県那覇市与儀1丁目3-1
TEL:098-853-3134



「昔は合併症などに遭遇する機会が多く、医師は、なぜを日々考えながら臨床をしていました。マニュアルが確立しミスがなくなると、臨床の場で、なぜを考える機会も少なくなりました。しかし、ミスが当たり前になりました。なぜを常に考えなければならぬ環境があります。それが研究です。なぜを

常には考えることでリサーチマインドが養われ、これは臨床の場で患者さんの些細な変化を見つける重要な能力に繋がっていくのです」

“良い師”に出会うこと。
常に“なぜ”を考え、
リサーチマインドを養うこと——
次代の医療を担うあなたへ、
垣花学先生からのメッセージ。

屋根瓦方式の手厚い指導體制のなか
圧倒的多数の症例に触れ、
医師としての確かな実力を培う

INTERVIEW

沖縄県立中部病院
内科 副部長（総合内科部長）
研修管理委員会委員長

金城 紀与史 先生

Kiyoshi Kinjo

東京都出身。1994年、東京大学卒業。亀田総合病院にて研修、米国トマス・ジェファーソン大病院内科レジデント、マウント・サイナイ病院呼吸器集中治療医学フェロー、アルバニー大・ユニオン大大学院修士（生命倫理）、手稲溪仁会病院を経て2004年から沖縄県立中部病院。2008年、沖縄県立中部病院 総合内科。2015年、研修管理委員会委員長。2017年、総合内科部長。

ALL
OKINAWA

AKAGAWARA PROJECT

× MuruUchina 04
Special Interview

沖縄県立病院群

多くの症例に触れ、
あらゆる臨床現場で
通用するジェネラリストに

【沖縄県立病院群】の臨床研修は、1967年以来、ハワイ大学医学部と二人三脚で米国の臨床教育を行ってきた沖縄県立中部病院の研修をその源流としている。プライマリ・ケアから総合周産期医療といった専門医療まで、圧倒的多数の症例に触れながら、あらゆる臨床現場で通用するジェネラリストとしての高い臨床能力を身に付けられるのが特徴的である。

【沖縄県立病院群】での研修は、プライマリ・ケアと救急医療に強く、いつ、どんな状況、どんな症状に対しても、初期対応がしっかりとできる高い総合診療能力を習得することができます。

そう語るのには、「沖縄県立病院群」を構成する4つの研修基幹病院の一つ、沖縄県立中部病院の総合内科部長である金城紀与史先生だ。

沖縄県立中部病院は、プライマリ・ケア研修において全国的に非常に評判の高い病院であり、外来で指導医が専任で教える本格的な「外来研修」システムを導入した金城先生は、臨床教育の改革者でもある。



県立病院は、離島を含めた全圏域を支える中核病院として、プライマリ・ケアから高度医療まで幅広い医療を担う使命がある。医療資源の限られた離島地域にあっては、その島で一人の医師として外科、内科、さらに小児科、産婦人科も診なければならぬ。離島医療も担う県立病院の医師にとって、高い総合診療能力は必須である。

「コモンディーズをしっかり診ることができる総合診療能力は、将来、どの診療科に進むにしても必要な能力です。医療機関によっては、診療科の専門医が週に一回しか来ることができない病院もあります。医師は、一人ひとりの患者さんにとって最高の医療を追求する使命があり、そのためにも総合

診療能力を身に付けることは必要なのです」

**基礎を疎かにせず、
当たり前前（あたりまえ）の
ことを
当たり前前にできること**

県立病院は地域の中核病院として戦後の長い間、救急医療、高度・特殊医療、離島・へき地医療、そして医療従事者の教育・養成を大きく担ってきた歴史がある。県立中部病院では2004年の臨床研修制度が必須化される以前からスーパーローテート方式や屋根瓦方式の指導が行われており、全国の臨床研修のモデルになったことは有名である。

こうした歴史と実績を持つ【沖縄県立病院群】での研修は、将来、あらゆる医療現場で活躍することができる、高い総合診療能力を身に付けるに相応しい環境だと言えよう。

「特に救急医療は多彩な症例の患者さん、そして全科の医師が行き交う交差点的な場所であり、ここで吸収できることは非常に濃密です。【沖縄県立病院群】は、症例数の多さと屋根瓦方式による、教える、教わる、という双方向性がしっかり確立していることも特徴です。充実

した救急医療の場において圧倒的多数の経験を積みながら、屋根瓦方式による手厚い指導体制で早い段階から症例に触れることができます。数を経験することは数年後に医師としての大きな実力の差となります」

「そして研修医が数を経験できるのは、屋根瓦方式による手厚い指導体制だけではなく、沖縄県に息づく人を育てる文化も大きいと金城先生は語る。

「沖縄県には人を育てる文化があります。研修医が早い段階から数を多く診ることが育てることに非常に協力的で、人を育てることに熱心だからです。患者さんの協力があるからこそ、多数の症例を経験することができ、医師として大きく成長できるのです」

「実は、当たり前前（あたりまえ）のことを当たり前前にできることが難しいのです。基礎を疎かにせず、基本に忠実であること。それもまた数を多く経験することで培われていくのです。当たり前前（あたりまえ）の

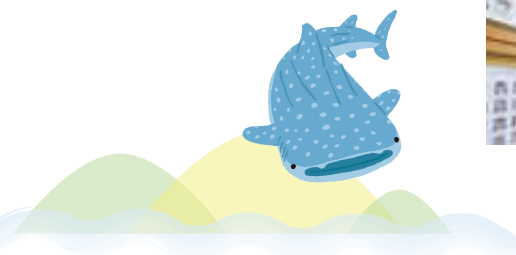
できるという基礎なくして、高い専門性を築くことはできません」

基礎がしっかりしていなければ、その上に築造された建物はいくら立派でも脆くなる。医師もまた同じであり、救急やプライマリ・ケアの場で多くの経験を重ね、大きくて頑丈な基礎を築くことが大切である。

Q. 先生にとって沖縄の研修とは？

A. どこでも活躍できる医師になるための方程式が確立されている。

多数の症例を経験すること。
当たり前前（あたりまえ）の
ことを
当たり前前にできること——
次代の医療を担うあなたへ、
金城紀与史先生からのメッセージ。





沖縄県立北部病院

〒905-0017 沖縄県名護市大中2-12-3
TEL:0980-52-2719



全米各地から指導医が来院

米国流 プライマリ・ケアを学ぶ

ハワイ大学医学部を窓口として、全米各地の指導医が臨床教育のために毎年来院し、レクチャー、回診、コンサルテーションが行われ、米国流のプライマリ・ケアを学ぶことができる。

沖縄県立中部病院

〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281
TEL:098-973-4111

沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター

〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町新川1118-1
TEL:098-888-0123

沖縄県立宮古病院

〒906-0013 沖縄県宮古島市 平良字下里427-1
TEL:0980-72-3151

沖縄県立病院群

離島医療など地域と密接に結びついたプライマリ・ケアから、総合周産期医療といった専門医療までカバー。幅広く圧倒的多数の症例に触れながら、あらゆる医療現場で活躍できるジェネラリストとしての強い臨床能力を習得できる。

病院事業局県立病院課(代表)

〒900-8570
沖縄県那覇市泉崎1-2-2
行政棟4階(南側)
TEL:098-866-2832
FAX:098-866-2837



確立した 屋根瓦方式の 教育システム

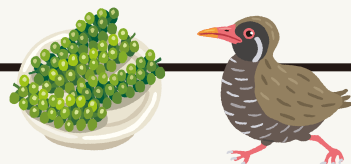
先輩医師が後輩医師の指導を行う「屋根瓦方式」の教育システムが確立されている。教えることで成長することができ、また、いつでも先輩医師に相談できる体制が整っている。

早くから

圧倒的多数の 症例に触れる

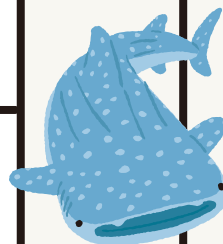
研修プログラムでは、早い段階から救急とプライマリ・ケアにおける圧倒的多数の症例に触れられるのが特徴だ。多数の症例を経験することで、あらゆる医療現場で通用する強い医師へと成長できる。





沖縄 クロスワードパズル

1	6	D				B
			3			A
	2			4		5
				E	7	
C			F		8	
			9			



タテのカギ

- 1 沖縄の万葉集ともいわれる書物は？
- 2 方位で「東」はどう呼ぶ？
- 3 沖縄市・コザで開催される
沖縄最大規模の○○○○祭り
- 4 沖縄の方言で「愛しい」は？
- 5 沖縄独特弦楽器といえは？

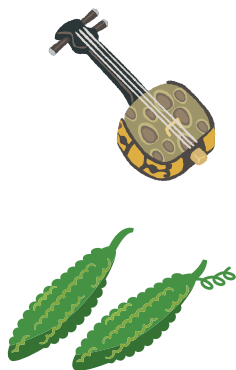
ヨコのカギ

- 3 今年で15周年
コミュニティラジオ放送局『○○○○那覇』
- 6 野菜など混ぜこぜにして炒めた料理は○○○○ー？
- 7 金武町の「金武」の読み方は
- 8 方位で「北」はどう呼ぶ？
- 9 沖縄の方言で「にんじん」とは？

答え

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---





Muru Uchina

ムルウチナー

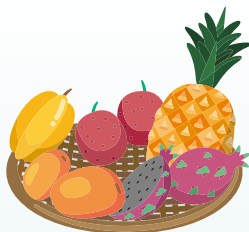


オール沖縄で 医師のキャリアを考えるマガジン

「MuruUchina(ムルウチナー)」第5号をお届けしましたが、いかがでしたでしょうか。

沖縄県地域医療支援センターは医師の地域偏在解消を目的とする組織です。

この冊子で少しでも私たちの想いをお伝えすることができれば幸いです。



発行



沖縄県地域医療支援センター

Okinawa Community Medicine Support Center

〒903-0215

沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

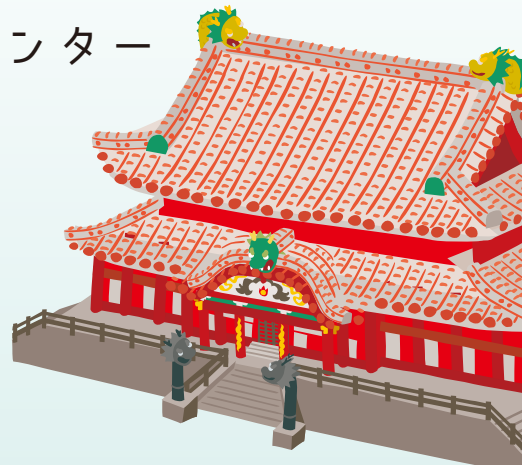
おきなわクリニカルシミュレーションセンター内

TEL : 098-895-1225

E-Mail : r0000000@jim.u-ryukyu.ac.jp

※ゼロが7つ

<http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp>



ムルウチナー バックナンバー



vol.04



vol.03



vol.02



vol.01



編集制作

【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社

ディレクター・デザイン：勝又シゲカズ 文：田口素行 撮影：小山英樹



北大東島
Daito
南大東島



Yonaguni
与那国島

Ishigaki
石垣島

Miyako
宮古島

Iriomote
西表島

Hateruma
波照間島



沖縄県地域医療支援センター

Okinawa Community Medicine Support Center

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

おきなわクリニカルシミュレーションセンター内

TEL : 098-895-1225

E-Mail : r0000000@jim.u-ryukyu.ac.jp

※ゼロが7つ

<http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp>

